

『競争力のある力強い農林水産業の振興・活性化』

第4次山形県総合発展計画の実現に向けて取り組む5つの政策の柱について、
主要な取り組みを紹介するシリーズの第2回目です。

特集 山形の園芸農業を支える花き生産 ～競争力の高い産地を目指して～



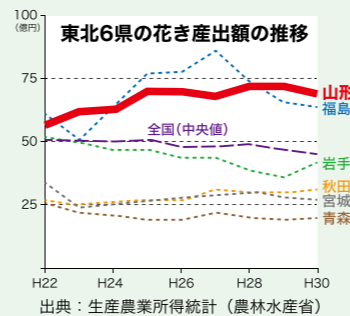
花きは、露地と施設を組み合わせた通年生産が可能で、農地と労働力を有効に活用できる高収益作物です。県では、県産花きの消費や産地の拡大に向けた取り組みを進めています。

山形の花き生産の歴史と強み

本県では昭和40年代からの米の生産調整に伴い、転作田を活用した花きの栽培が始まりました。菊の露地栽培をきっかけに、花きが高収益作物として注目され、昭和50年代にはハウスでの栽培が広がり、品目数・出荷量ともに増加しました。昭和60年代以降は、景気拡大とともに日本全体の花き消費量が増え、全国で花きの生産が盛んになりました。その中でも、本県は昼と夜の温度差が大きく、他県と比べ秋が涼しいといった気象条件を生かし、夏秋期に品質の優れた花を出荷する産地として高い評価を受けています。

本県の花き生産の現状

近年、人口減少等の影響で国内の花き産出額は減少傾向にあります。が、本県は、消費者が求める品目の生産や、出荷時期の延長などの取り組みを進めています。



消費拡大への取り組み

県では、生産団体と流通・小売団体で組織する山形県花き生産連絡協議会とともに、県産花きを積極的にPRしています。首都圏での宣伝や、やまがたフラワーフェスティバルに加え、今年度から新たに、県産花きに触れてもらう取り組みを始めました。

①花育の推進 ～学校に花を飾ろう～

県内の小中学校及び特別支援学校に、年5回、県内で生産された季節の花を贈っています。子どもの頃から花に親しむ機会を増やすことで、県産花きへの愛着を育みます。



出荷時期が広がったストック

②素敵な県産花きでお出迎え

県内主要駅や空港など本県の玄関口や、やまぎん県民ホール、伝国の杜などの多くの人が訪れる公共施設に、県産花を使ったフラワーアレンジメントを展示しています。県民の皆さん・県外からのお客様に、県産花きの魅力を実感してもらい、日々の暮らしに取り入れていただきたいと考えています。

産地拡大への取り組み

産地を拡大するには、生産性と品質向上に取り組みながら、産地間競争を勝ち抜く力が必要です。そのためには生産規模の拡大と技術面での革新が不可欠です。県では園芸産地のさらなる拡大に向け、ハードとソフトの両面から支援しています。

①機械化・団地化で生産効率化

ハード面では、花き農家が行う栽培施設の整備や機械の導入費用に対して市町村と連携して支援しています。また、酒田市、東根市、西川町では、大規模園芸団地を形成し、花きの販売額1億円以上を目指して生産規模の拡大に取り組んでいます。

②新技術導入で競争力アップ!

ソフト面では、園芸農業研究所が中心となり、新たな技術の開発とその導入・定着を図っています。ストックでは、開花を早めたり遅らせたり調整できる技術を開発し生産時期をコントロールすることで、切れ目なく出荷可能な産地づくりを進めています。

啓翁桜は、枝に密に花がついた商品が好まれるため、効率的に花をたくさんつける新たな技術の導入を試行しています。



③栽培継続を支援(新型コロナ対応)

4月の緊急事態宣言以降、花きの需要と消費が落ち込み、生産者からは「売上げが減少し、次の生産の準備ができない」という声が上がりました。そこで、価格低迷の影響を受けた品目の生産が途切れないように、必要となる種苗の購入費を補助しています。

トピック 果樹や野菜花きの新たな研究拠点「園芸農業研究所」開所!

研究所(旧園芸試験場)は、さくらんぼの大玉新品種「やまがた紅王」など多くのオリジナル品種や、果樹、野菜、花きの生産技術を開発してきた施設です。平成29年度から3年をかけて、研究・栽培施設や研修棟を整備し、機能を強化しました。今後も、園芸農業の可能性をさらに広げる研究開発を進めていきます。

7月10日の開所式の様子

ぜひご覧ください!

県政テレビ番組
いき☆いきやまがた
放送のご案内

「地域と共に次の世代へ! 農林水産業の振興と活性化」と題して県内民放4局で特別番組(30分)を放送します。

さくらんぼテレビ(SAY)
●9月5日(土)午後4時～

山形テレビ(YTS)
●9月13日(日)午後4時～

山形放送(YBC)
●9月20日(日)午後4時25分～

テレビユー山形(TUY)
●9月27日(日)午後3時30分～

放送時間は変更になる場合があります。

やまがたフラワーフェスティバル2020のご案内

県内最大の花き品評会です。魅力たっぷりの入賞作品をぜひご覧ください。

場所：小真木原総合体育館(鶴岡市小真木原町2-1)

日時：10月17日(土) 10:00～16:00
10月18日(日) 10:00～14:00

※開催内容は変更になる場合があります。

入場無料

昨年(2019年)のフラワーフェスティバルの様子

▶問い合わせ ◎ 園芸農業推進課 ☎023-630-3380

本県の花き生産の品目別産出額 (主なもの)

品目	産出額(億円)	備考
ばら	14	全国3位、東北1位
トルコギキョウ	7	全国5位、東北1位
ゆり	6	東北2位
花壇用苗もの	6	東北1位
アルストロメリア	5	全国3位、東北1位
ストック	5	全国2位、東北1位

出典：生産農業所得統計（農林水産省）

ど、選ばれる産地づくりに取り組み、産出額は東北一となっています。内訳を見ると、ばらやトルコギキョウなどのハウス栽培の花きが上位を占め、アルストロメリアやストックも全国上位の産出額を誇ります。また、お正月から卒業・入学式シーズンに飾られる啓翁桜は全国シェア9割と本県産の独壇場です。最近では、球形の白い花を咲かせるスノーボールなど、消費者・生花店から人気のある新しい品目の生産も盛んです。

コロナ禍により、家庭で過ごす時間が増える一方、イベントの在り方も変わるなど、花きの利用場面も変化すると見込まれています。県では新たな消費動向に対応しながら、本県の花き生産のさらなる振興を目指しています。今回は、その取り組みの一部をご紹介します。